

# 耐震診断報告書目次

§ 1	建築物及び耐震診断結果概要	
1-1	建築物概要及び構造概要	<u>P1</u>
1-2	耐震診断概要	<u>P1</u>
1-3	耐震診断結果	<u>P1</u>
1-4	配置図	<u>P1</u>
1-5	平面図・立面図・構造図	<u>P1</u>
1-6	外観写真	<u>P1</u>
§ 2	現地調査	
2-1	調査概要	<u>P1</u>
2-2	調査結果	<u>P1</u>
2-2-1	図面との照合	<u>P1</u>
2-2-2	建物被災履歴	<u>P1</u>
2-2-3	コンクリートのひび割れ	<u>P1</u>
2-2-4	コンクリートの強度	<u>P1</u>
2-2-5	コンクリートの中性化	<u>P1</u>
2-2-6	付表等(調査結果一覧表)	<u>P1</u>
2-3	鉄骨部の実態調査	<u>P1</u>
2-3-1	調査概要	<u>P1</u>
2-3-2	調査結果	<u>P1</u>
2-3-2	実態調査図	<u>P1</u>
§ 3	耐震診断方針	
3-1	耐震診断内容	<u>P1</u>
3-2	耐震診断基準等	<u>P1</u>
3-3	使用電算プログラム	<u>P1</u>
3-4	使用材料及び強度	<u>P1</u>
§ 4	耐震診断計算	
4-1	形状指標 (Fes)	<u>P1</u>
4-2	破壊形式図	<u>P1</u>
§ 5	添付資料	
5-1	詳細検討資料	<u>P1</u>

§ 1 建築物及び耐震診断結果概要

1-1 建築物概要及び構造概要

(診断)

発注者		<u>〇〇〇</u>		
耐震診断	診断者	<u>〇〇〇</u>		※報告書は発注者の承認を得ていることなどを記述する。
	診断者住所	<u>〇〇〇</u>		
	診断年	<u>平成00年00月</u>		
	診断評価番号	<u>HA0 34-00-0000</u>		
診断建物名称		<u>〇〇〇</u>		
診断建物所在地		<u>〇〇〇</u>		
診断建物設計者		<u>〇〇〇</u>		
診断建物施工者		<u>〇〇〇</u>		
診断建物規模		地上 <u>0</u> 階	建築物の特徴 ※下記の項目などを記述する。	・建築物の軸線
		地下 <u>0</u> 階		
		塔屋 <u>0</u> 階		
診断建物竣工年		昭和 <u>00</u> 年 (経過年数)		・増築・改修の有無
主要用途		<u>〇〇〇</u>		・増築・改修の時期
主要仕上		外壁 <u>〇〇〇</u>	・外壁、屋根、間仕切りの仕上げを記載	
		屋根 <u>〇〇〇</u>		
		間仕切 <u>〇〇〇</u>		
建物形状	平面形	<u>〇〇〇</u>		・建物形状の特徴
	立面形	<u>〇〇〇</u>		
建物面積	建築面積	<u>0</u>	m <sup>2</sup>	・床面積の内訳
	延べ面積	<u>0</u>	m <sup>2</sup>	
	<u>0</u> 階	<u>0</u>	m <sup>2</sup>	
建物高さ	軒高さ	<u>0</u>	m	
	<u>0</u> 階	<u>0</u>	m	
建物長さ	X方向	<u>0</u>	m	
	Y方向	<u>0</u>	m	
隣接建物 避難階段等		<u>〇〇〇</u>		・隣接建物 ・EXP. Jの間隔、高さ比 ・避難階段・滑り台の有無、接合方法 ・その他重要事項
建築物概要*耐震診断				

構造種別		<u>〇〇〇</u>		構造の特徴
架構形式	X方向	<u>〇〇〇</u>		※下記の項目などを記述する。 <u>・ 架構形式</u>
	Y方向	<u>〇〇〇</u>		
スパン数	X方向	<u>0</u>	スパン	
	Y方向	<u>0</u>	スパン	
スパン長	X方向	<u>0</u>	m (代表スパン)	
	Y方向	<u>0</u>	m (代表スパン)	
柱の断面種別		<u>H形鋼</u>		<u>・ 断面種別、日の字柱等を記載</u>
柱脚形式		<u>露出柱脚</u>		<u>・ 露出、根巻き、埋込等の形式を記載</u>
接合・継手形式		<u>柱-柱接合 (溶接接合、ボルト接合)</u>		
		<u>柱-梁接合 (溶接接合)</u>		
		<u>梁-梁接合 (高力ボルト接合)</u>		
筋かいの有無及び断面種別		<u>筋かい有、連層有 (山形鋼)</u>		<u>・ 筋かいの有無 (連層の有無)、断面種別</u>
屋根架構		<u>筋かい、大スパン架構</u>		<u>・ 筋かい、トラス架構、大スパン架構等</u>
床架構		<u>RCスラブ (接合筋有)</u>		<u>・ 筋かい、合成床、RCスラブ等</u>
持出し部材	X方向	<u>〇〇〇</u>		
	Y方向	<u>〇〇〇</u>		
層重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN	
単位重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN/m <sup>2</sup>	
基礎地盤	基礎形式	<u>〇〇〇</u>		<u>・ 地盤</u>
	長期支持力	<u>〇〇〇</u>		<u>・ 敷地</u>
	支持層	<u>〇〇〇</u>		
	支持深さ	<u>〇〇〇</u>		
	地盤種別	<u>〇〇〇</u>		
	敷地状況	<u>〇〇〇</u>		<u>・ 平坦地、崖地 (水平距離、高さ等記載)</u>
その他		<u>〇〇〇</u>		<u>・ その他重要事項</u>

(診断)

使用材料・強度*耐震診断	既存コンクリート	強度	設計基準強度	<u>0</u>	N/mm <sup>2</sup>	材料の特徴 ※下記の項目などを記述する。 ・コンクリート強度、中性化の内訳	
			推定強度	<u>0</u>	N/mm <sup>2</sup>		
		基礎	基準値	<u>0</u>	mm		
		中性化	測定値の最大値	<u>0</u>	mm		
			中性化深さ	<u>0</u>	mm		
	既存鉄筋	主筋	材質	降伏点強度			・JIS規格品 1.1倍割増降伏点強度
		あばら筋	SR24	<u>258</u>	N/mm <sup>2</sup>		
		その他	SR24	<u>258</u>	N/mm <sup>2</sup>		
	既存鉄骨	柱	材質	降伏点強度			・JIS規格品 1.1倍割増降伏点強度
		梁	SS41	<u>258</u>	N/mm <sup>2</sup>		
筋かい		SS41	<u>258</u>	N/mm <sup>2</sup>			
アンカーボルト		材質	引張強度			・引張強度	
接合ボルト	SS41	<u>400</u>	N/mm <sup>2</sup>				
その他		HTB F10T	<u>1000</u>	N/mm <sup>2</sup>		・その他重要事項	
		その他	<u>000</u>				

現地調査 *耐震診断	設計図書の有無	<u>有</u>	特記事項	
	被災履歴	<u>有 (平成13年芸予地震)</u>	<u>・調査方法、箇所について発注者と協議</u>	
	図書の照合	<u>不整合箇所有り</u> <u>(ブレース位置が設計図書と不整合)</u>	<u>・CAD化した図面の発注者の承認</u> <u>・既存図の添付 (矩計、断面詳細、</u>	
	部材	柱	<u>調査有 (目視、寸法測定)</u>	<u>鉄骨詳細図等)</u>
		梁	<u>調査有 (目視、寸法測定)</u>	<u>既存図の添付は参考でも可</u>
		筋かい	<u>調査有 (目視、寸法測定)</u>	<u>・調査結果は実態調査用紙に記入する</u>
	接合部	ボルト接合	<u>調査有 (高力ボルト：目視)</u>	
		隅肉溶接	<u>調査有 (目視、寸法測定)</u>	<u>・隅肉サイズ、のど厚、長さの調査は必須</u>
		ダイアフラム	<u>調査有 (目視、寸法測定、超音波探傷)</u>	<u>・突合せ部の超音波探傷試験は必須</u>
	柱脚	<u>調査有 (目視、寸法測定、超音波探傷)</u>		
	部材の傾斜、座屈	<u>調査有 (目視)</u>		
	鉄骨さび、腐食	<u>調査有 (目視)</u>		
	基礎状況	<u>調査無</u>		
	ひび割れ劣化	<u>調査有 (目視)</u>		
	不同沈下	<u>調査有 (目視)</u>		
コンクリートブロック	<u>無</u>			
非構造部材	<u>評価対象外 (別途検討)</u>	<u>・非構造部材の取り扱い</u>		
その他	<u>〇〇〇</u>	<u>・その他重要事項</u>		

(診断)

保有水平耐力	節点振分け法	<u>有 (接合部破断は無し)</u>	特記事項
	仮想仕事法	無	※下記の項目などを記述する。
	荷重増分法	無	・保有水平耐力算定の採用の有無
	弾性解析	無	・接合部破断の有無
モデル化および計算手法*耐震診断	解析用外力分布	<u>Ai分布</u>	
	全体・ゾーニング	<u>ゾーニング</u>	・水平剛性の評価 (建物全体又はゾーニング)
	部材の耐力評価	<u>設計図書とおりで耐力を評価</u>	・実態調査結果の反映方法
	接合部の耐力評価	<u>突合せ溶接部に欠陥有り、接合部耐力を低減</u>	・接合部調査、超音波探傷結果の反映方法
	大スパン架構	<u>大スパン架構有、鉛直震動の検討有</u>	・大スパン架構の有無、鉛直震動の検討等
	水平面の荷重伝達	<u>略算法</u>	・略算法又は精算法
	不整形架構	<u>不整形架構有、Fesはゾーン毎</u>	・不整形架構の有無、Fesの方針等
	支点モデル	<u>弾性バネ</u>	・ピン、固定、弾性バネ等
	使用プログラム	<u>〇〇〇</u>	・使用プログラム、バージョン
	その他		・その他重要事項

耐震診断基準	※診断基準は、採用した主たる基準を記述し、準拠した基準も列記する。			
耐震診断次数	精密診断			※発注者と協議を記述する。
耐震診断諸数値	地域係数：Z = <u>0.9</u> 用途係数：U = <u>1.0</u> 地盤指標：G = <u>1.0</u> 振動特性係数：R <sub>t</sub> = <u>1.0</u> 剛性率・偏心率の係数：F <sub>es</sub> = <u>1.00</u> 層のDs値：S <sub>T</sub> = <u>0.25</u>			※発注者と協議を記述する。  ・地盤指標を採用する場合はGの値を記載
	鉄骨造：I <sub>s</sub> = E <sub>o</sub> / (F <sub>es</sub> · Z · R <sub>t</sub> · U · G)			
	鉄骨造：E <sub>o</sub> = Q <sub>u</sub> · F / (ΣW <sub>i</sub> · A <sub>i</sub> )			
鉄骨造：q = Q <sub>u</sub> / (S <sub>T</sub> · F <sub>es</sub> · ΣW <sub>i</sub> · Z · R <sub>t</sub> · A <sub>i</sub> · U · G)				
耐震診断判定指標	I <sub>s</sub> = <u>0</u>		q ≥ <u>0</u>	
耐震診断結果	X方向			考察
	階	I <sub>s</sub> 値	q値	判定
	1階	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>〇〇〇</u>
	Y方向			※下記の項目などを記述する。 ・ゾーニング ・接合部破断
	階	I <sub>s</sub> 値	q値	判定
	1階	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>〇〇〇</u>
	特記事項			
	※下記の項目などを記述する。 ・鉄骨接合部 ・地盤 ・コンクリートブロック、特定天井、非構造部材 ・エキスパンションジョイント ・隣接建物 ・大スパン ・持出し梁 ・詳細な調査の必要性 ・改修の必要性 ・補修の必要性 ・その他重要事項			

X方向										
	階	$\Sigma W$ (kN)	Ai	Qu (kN)	Fi	Eo	Fes	I s	q	破壊形式
→	正 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
←	負 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
Y方向										
	階	$\Sigma W$ (kN)	Ai	Qu (kN)	Fi	Eo	Fes	I s	q	破壊形式
→	正 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
←	負 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇, 〇〇
									U=	0
									R <sub>r</sub> =	0
									G=	0
									Z=	0
特記事項										
※決定した方向などを記述する。										
※その他重要事項										
判定基準は以下とする										
(1) Isが0.3未満またqが1.0未満・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い。										
(2) (1)、(3)以外・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある。										
(3) IsがIso以上かつqが目標値以上・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い。										